

第4学年 社会科学学習指導案

活動日 平成14年2月16日
 授業者 埴岡靖司
 活動場所 第1学習センター（校舎3階東）

1. 単元名 わたしたちの岐阜県(全30時間) 小単元名 特産物を生かす伝統工業(全9時間)

2. 指導の立場

本単元では、岐阜県は「飛山濃水」と言われる0mの平地から3000mの山地までの土地の特色を生かし、山地では観光、平地では洪水を克服した農業を産業として発展していることを理解する。

本小単元では、岐阜提灯は岐阜市近隣にある竹ひご、和紙や木地が豊かにあったことから、提灯作りが生まれたこと、岐阜市の伝統産業として今後も作り続けられるように努力していることを理解する。

児童は、3年生の産業の学習では、木曽川沿いにあった桑の木をもとに蚕を飼って織物や撚糸を行ってきたことを学習している。それらの産業は、自然条件や社会条件に大きく関わっていることを、工場見学や聞き取りから学んできている。

そこで、まず、提灯作りが100余年続いていることを知る。次に100年間続いた技のすばらしさとそれを守っていこうとする技術者の気持ちを感じ取らせたい。そして、今後も自然を生かしながら、技術を育てて発展していこうとしていることを理解させたい。

3. 願う子どもの姿

提灯作りに関わる人が岐阜提灯の形のよさや提灯のあかりのもたらすやさしさを知ってもらうために、技術を受け継いでいく努力や工夫や、提灯が長良川の水運や提灯の材料が集積する条件のよさを生かしていることを調べることを通して、岐阜提灯が100余年間作り続けられてきたことが分かる。

4. 研究との関わり

- 研究内容 に関わって（基礎・基本を確立するための、情報教育カリキュラムにのっとった単元指導計画の在り方）
 社会科の「調べて考える力」をつけるために、インターネット、ビデオ、写真資料、資料集から、自分の課題にあった資料を「選ぶ」、分かったことをまとめる場を位置づける。そして、分かった事実をもとに、考えを「伝える」話し合いを深めることで、内容理解ができるようにする。
- 研究内容 に関わって（基礎・基本の力をつける学習活動の在り方）
 社会科の「調べて考える力」を育てるため、収集した写真や資料をもとにして意見発表の資料を作る。資料作りを通して得た知識をもとに、話し合うことで本時のねらいを達成することができるようにした。
 また、学習に関連するリンク集や観察時のデータを活用できるよう、授業前や授業後に進んで学習できるページを用意し、学びの連続を図る。
- 研究内容 に関わって（基礎・基本の定着を図る自己評価の在り方）
 検証資料から分かることを明確にして、1時間の考えの足跡をふりかえる時間を持つ。単元の終わりには、キーワードをつないだまとめを作ることで、内容を理解できるようにする。

5. 小単元指導計画

		ね ら い	主 な 学 習 活 動	自ら学ぶ姿の育成
第 一 次	1 ↓ 4	- 岐阜提灯の歴史を知り、長く続いていることが分かる。 - ミニ提灯を作りを通して、岐阜提灯について調べたいという意識を持つことができる。	- 提灯作りに関する新聞作りをする。 - ミニ提灯作りを体験する。 - 岐阜市の位置や地形の特色を調べる。 - 提灯作りを学習する課題を作る。	資料から必要なキーワードを「選ぶ」ことができる。キーワードをもとに課題を持つことができる。
第 二 次	5 ↓ 本 時 8	- 岐阜提灯の作り方を、見学の経験やビデオからまとめることができる。 - 提灯張り師の鈴村さんの仕事の様子から、鈴村さんの気持ちを考えることができる。 - 岐阜提灯は、火袋の和紙・輪の木・竹等地域の特産を生かして作り続けられていることが分かる。	- 提灯作りの作り方を調べ、まとめる。 - 提灯をつくる鈴村さんの仕事を調べる。 - 鈴村さんの職人の技を調べる。 - 提灯が作り続けられているわけを調べる。	課題解決に必要な資料を「選ぶ」、考えを「調べる」ことができる。資料から分かることを見つけ、事実で話すことができる。
第 三 次	9	昔の技術を生かしつつ、現代の生活に合う照明器具としての商品を開発していることが分かる。	- 現代の生活に合うような商品を調べる。 - これからの提灯作りについての願いをまとめる。	これからの提灯作りへの願いを、表現して「伝える」ことができる。

6. 本時の目標 (7 / 9)

火袋ののりづけをしたり、絵紙の合わせ目を切ったりする鈴村さんの仕事の様子から、何年もかけて身につけた技のすばらしさに気づき、鈴村さんのお話から、その技を守っていきたいと考えていることが分かる。

7. 本時の評価規準

知識・理解	鈴村さんは、伝統の技1つ1つを守っていきたいと考えていることが分かる。
-------	-------------------------------------

8. 本時の展開

段階	学 習 活 動	研究に関わって 資料 ○ 評価 → 支援
つかむ	1. 本時の課題を確認する。 張り師の鈴村さんは、ちょうちん作りをどんな気持ちで続けているのでしょうか。	
ふかめる	2. 「火袋をのりづけする鈴村さんのビデオ」から話し合う。 ・のりをたたくようにつけている。なぜのりをたたきつけるようにするのかなあ。 ・のりのはけをたたくようにすると、竹ひごにたくさんつくからだと思います。 ・はけをたたくように動かすと、竹ひごからのりがたれない。でも、ゆっくりぬってもたれないなあ。どうして、早くぬるの。 ・たたくと、はけ全部が提灯のひごにあたるからだと思います。 ・のりをつけてみたけど、難しかったよ。少しだけだとはがれるんだ。	のりづけのVTR < 共有された情報の活用 > ○ まんべんなくのりが付くように、大きく手を振っていることが分かる。 → 多くもなく少なくもなくのりをつけている様子を、手の動きから読みとるように助言する。
	3. 「合わせ目をカミソリで切る鈴村さんのビデオ」から話し合う。 ・カミソリを2本の指で持っている。そうすると、力が入りにくいのかなあ。 ・うまく切らないと、すき間ができるって言われた。光が漏れると提灯でなくなる。 ・すぐにうまく切ることはいかない。どれくらいかかるとできるのかなあ。	合わせ目を切るVTR ○ 上の紙だけを切り取る微妙な力加減が分かる。 → 力を入れすぎないように注意していることに気づかせるために、カミソリを持つ手を見るように助言する。
	4. 鈴村さんの仕事に対する気持ちを聞く。 ・技を守るために、作り続けている。 ・仕事1つ1つができていってもだめなんだ。どの仕事もできるようにしているのが素晴らしい。	
まとめる	5. 本時の活動をまとめる。 ・長い間かかって、技術を身につけている。ずっと続けることが大切なんだ。 ・鈴村さんは、技を守っていきたいと考えている。	